

# さいたま市公民館運営審議会第7回会議 議事録

## 1 開催日時

令和7年7月29日（火） 14時00分から15時50分まで

## 2 開催場所

生涯学習総合センター 10階 多目的ホール

## 3 出席者

〈委員：12名〉

- ① 加藤 美幸 委員長
- ② 磯田 三津子 副委員長
- ③ 太田 祐子 委員
- ④ 大塚 晶子 委員
- ⑤ 小林 玲子 委員
- ⑥ 小森谷 由紀江 委員
- ⑦ 佐藤 一子 委員
- ⑧ 島田 正次 委員
- ⑨ 白石 徳一郎 委員
- ⑩ 富田 敏弘 委員
- ⑪ 西形 恵美子 委員
- ⑫ 山口 哲生 委員

〈拠点公民館職員等：11名〉

- |       |          |        |
|-------|----------|--------|
| ① 西 区 | 指扇公民館長   | 菅野 剛史  |
| ② 北 区 | 大砂土公民館長  | 武笠 充裕  |
| ③ 大宮区 | 桜木公民館長   | 細井 規夫  |
| ④ 見沼区 | 大砂土東公民館長 | 茂木 深雪  |
| ⑤ 中央区 | 鈴谷公民館長   | 貫井 直美  |
| ⑥ 桜 区 | 田島公民館長   | 舟腰 祐子  |
| ⑦ 浦和区 | 岸町公民館長   | 河原塚 政行 |
| ⑧ 南 区 | 文蔵公民館長   | 桑原 健司  |
| ⑨ 緑 区 | 大古里公民館長  | 酒井 浩志  |
| ⑩ 岩槻区 | 岩槻本丸公民館長 | 石関 達   |
| ⑪ 中央区 | 与野本町公民館長 | 中村 淑人  |

〈事務局：7名〉

生涯学習総合センター

- |       |       |
|-------|-------|
| ① 館長  | 杉本 達洋 |
| ② 副館長 | 大城 冬樹 |

- |                 |       |
|-----------------|-------|
| ③ 主幹兼事業・企画係長    | 山田 浩行 |
| ④ 事業・企画係主査      | 三好 七月 |
| ⑤ 事業・企画係主事      | 小暮 裕貴 |
| ⑥ 事業・企画係社会教育指導員 | 成尾 千里 |
| ⑦ 事業・企画係社会教育指導員 | 田山 基子 |

4 欠席者

0名

5 事務局からの報告、説明等

- ・ 前回会議録について

6 配布資料

- (1) さいたま市公民館運営審議会第7回会議 次第
- (2) さいたま市公民館運営審議会第7回会議 席次表
- (3) さいたま市公民館運営審議会第6回会議 議事録
- (4) 評価対象館の選定結果について
- (5) 評価の実施方法について
- (6) グループ席レイアウト
- (7) 評価用資料【Aグループ：植水公民館 Bグループ：与野本町公民館】
  - ・ 取組評価シート（様式1、様式2）
  - ・ プレゼンテーション資料
  - ・ 取組実施報告書

7 公開・非公開の別

公開

8 傍聴者の数

0名

9 会議

委員の半数以上が出席しているため成立

10 内容

- ・ 前回会議録について報告を行った。

## 議題1 「公民館ビジョンに基づく取組評価の実施について」

- ・資料「評価の実施方法について」に沿って、A、Bの2グループに分かれて同時進行で評価を実施した。

Aグループ：加藤委員長、太田委員、大塚委員、小森谷委員、富田委員、山口委員

Bグループ：磯田副委員長、小林委員、佐藤委員、島田委員、白石委員、西形委員

### Aグループ協議

植水公民館「地域の再発見と地域の方々とのつながりづくり」

発表者：指扇公民館 菅野 剛史 館長

各委員からの意見・質疑応答

富田委員	味噌づくりのあとに、具体的にどのような話をしたのか。
菅野館長	今回は講師に任せ、時間内に自由にお話ししていただいた。アンケートからおしゃべりについては「盛り上がって楽しかった」、味噌づくりについては「ぜひまた作りたい」など、満足だったことが伺えた。
加藤委員長	ヨーグルトや甘酒などの発酵食品も作ってみたいという感想はあったのか。
菅野館長	今回のアンケートでは無かったが、毎回参加されている方もいるので、今後工夫してやっていきたいということを講師から伺っている。
太田委員	費用はいくらか。参加費の中に講師代も含まれているのか。
菅野館長	材料費は味噌約1キログラム分2,000円で行った。
事務局	講師代は別で公民館予算から出している。
加藤委員長	割と高いと感じるが、参加者がたくさん集まったとのことなので、魅力ある講座だったと思われる。
大塚委員	地域の歴史を取り上げている点がとてもよい。企画する職員はそれをどのように受け継いでやっているのか。
菅野館長	基本的には毎年同じ地域の方に語り部としてお話をしていただいている。博物館の職員に協力してもらうこともある。
大塚委員	今後、若い世代に向けた企画を考えて、発展していけたらよいと思う。
菅野館長	歴史講座の参加者は7、8割がシニアの男性である。若い方の参加となるとなかなか難しい。石碑や観音様などをどう組み込んでいくかがとても難しい部分である。
加藤委員長	小学3年生で地域の歴史を勉強するし、2年生は町探検を行う。公民館が学校と連携して、地域をウォークラリーしながら学べるようにコーディネートするとよいのではないか。
大塚委員	ポイントを歩いて回るオリエンテーリングにすれば、子どもにも楽しい取組になると思う。
富田委員	オリエンテーリングのポイントでシールを配り、例えばシールを鷹のイラストにするだけでも子どもにとっては楽しいのではないか。
小森谷委員	公民館が自治会とどう関わったのか聞かせてほしい。
菅野館長	まずは自治会連合会に顔を出している。また、自治会長は公民館に来館されることが多く、水害対策や避難訓練などの話をしながら地道な対話を続けてい

	る。そのような中で自治会から相談を受け、事業の話があがった。
山口委員	資料の中に、50代以下は約12.5%の利用率で前年比0.1%の減とあるが、これは何に対しての数字なのか。
菅野館長	夏の子ども公民館や親子対象の講座を除いた公民館講座の参加率である。20代、30代の方々の参加を増やすという課題がある。
山口委員	公民館のことが知られていないのではないかと。ターゲットを定める必要があると思う。公民館は小・中学生や未就学児と保護者が安全に集える場ということをもっと知らせてほしい。
太田委員	講座の情報は公民館報に載せて、自治会を通して配布しているのか。
菅野館長	西区の公民館では自治会を通して配布又は回覧している。

#### Aグループ評価コメントの取りまとめ

「取組へのイイね！」について

大塚委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史講座というと大河ドラマに関連したものが多い中、地元の歴史を取り上げていて、それを公民館が大切に受け継いでいる。</li> <li>・歴史好きな男性が多く参加している。</li> <li>・職員自らが取り組み、アクションを起こしている。</li> <li>・公民館のエリア以外の参加者を集める工夫をしている。</li> <li>・各団体と連携がとれている。</li> </ul>
富田委員	・「おしゃべり」というのが講座名に付くだけで目を引く。新しさを感じる事業になっている。
菅野館長	担当職員は「おしゃべり」を講座名に入れることにこだわった。
加藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・味噌づくりは楽しく手軽にできて健康にもよい。</li> <li>・しゃべり場があるというところがこの取組の一番よいところ。</li> <li>・歴史講座は、地域の資源を活用していることに加え、ウォーキングがセットになっていて健康にもよい。</li> <li>・落語も味噌づくりと同じように、落語の話題で盛り上がる工夫をしている。</li> <li>・落語会は、公民館職員がノウハウを提供して自治会と協力して行っていて両者にとってプラスになっている。</li> </ul>
小森谷委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・味噌づくりは食、歴史講座は歩く、落語は笑い。どの講座も「健康」をテーマにつながっており、地域交流の場に「健康」の願いが込められていることが良い。</li> <li>・公民館がねらうつながりづくりが地域の人に伝わっている。</li> </ul>
太田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発酵食品の講座について、参加費は高く感じるが、多くの参加があったので、まずは公民館に来ていただけたということが重要。</li> <li>・味噌づくりのあとにおしゃべりをする時間があつた。</li> <li>・味噌の話から話が広がって交流につながっている。</li> <li>・落語は身近なところでやってないので、公民館だったら行ってみようという気になる。</li> </ul>
菅野館長	担当職員は内容に深みを増す工夫を落語家と打ち合わせていた。落語が好き

	なので、もっと深めたいという気持ちがあった。
加藤委員長	・好きなことは深く広げられる。職員の方もやりがいがある。そういったところがその公民館の特色になっていってもよいと思う。

「皆で活かせるポイント!」、「1 u p への道」について

山口委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企画力、行動力、P R 力。それに尽きる。</li> <li>・広報を自治会の回覧板に入れるだけで効果がある。</li> </ul>
大塚委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な年代に対応するためにコラボレーションを行う。</li> <li>・史跡巡りをオリエンテーリングにしてスタンプやシールを集める。</li> <li>・伝説をゲームにつなげて、みんなでゲームづくりをやれば、子どもが歴史を学べる企画がいろいろできる。</li> <li>・歴史があれば地元飯もあるだろうから、それにからめた料理講座を実施する。</li> <li>・どこの公民館にも強みがあると思うので、地域の特性を生かしたコラボをすれば新しいものができる。</li> <li>・W o r d 1 → W o r d 2 → W o r d 3 のようにステップアップしていく公民館のパソコン講座もある。それと同様に、何度も同じ方が来ているという味噌づくりの講座もシリーズ化するとよい。</li> </ul>
太田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・史跡巡りは、親子とか祖父母とお孫さんなど、誰でも参加しやすくする。</li> <li>・子どもが参加しやすい日に行う。</li> </ul>
富田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広報にインパクトがある写真を使って子どもの興味を引く。</li> <li>・小学生、中学生、高校生、子育て世代に向けた講座を増やす。</li> <li>・対象の年代は幅を広げると集まりにくい。小学生対象、中学生対象、親子対象のように的を絞る。</li> <li>・日曜日の方が子どもを集めやすい。</li> <li>・授業の無い土曜の午前中をねらえば、特に小学生は参加しやすいと思う。</li> </ul>
加藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実物を見せるとインパクトがある。</li> <li>・お祭りにからめて実施するのもよい。</li> <li>・ステップアップすると学んだ人が指導できるようになるかもしれない。</li> <li>・ボランティアについては、小学生の時に面倒を見てもらった子が、中学生、高校生になってまたボランティアで公民館に来てくれるということもある。</li> <li>・兄弟も少ないのでよい経験になる。</li> <li>・子どもたちがボランティアをやりたいと言えば、学校の先生も協力してくれると思う。</li> <li>・しゃべり場について、中学生、高校生、大学生はボランティアとして参加してもらい、小学生はお兄さんお姉さんたちとおしゃべりができる場と一緒に遊ぶ時間をつくると参加が増えるのではないかな。</li> <li>・若い人が来ないという課題については、ボランティアセンターなどに声をかけて、大学生や高校生をボランティアとして活用する。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講座に参加した子どもを離さない工夫が必要である。次はどんなことをしたいのかという声をアンケートで聞き取る。</li> <li>・他の講座にも関わられるようなしくみや、学んだ成果が生かせるような場をつくり、情報発信して次へつなげていく。</li> <li>・口コミを活用する。友だちを誘って一緒に行ってみようというのがよい。</li> <li>・簡単に作れて、食べて、おしゃべりもできる。子ども連れOKにすれば、家族で参加できる。子育て支援や子どもの居場所づくりにもなる。</li> </ul>
--	--

## B グループ協議

与野本町公民館「地域への誇りと愛着を育む公民館づくり」

発表者：与野本町公民館 中村 淑人 館長

各委員からの意見・質疑応答

白石委員	いろいろな学校と連携をして、職員数が少ない中、素晴らしい取組だと思う。動画の作成でナレーションを中学生に担当してもらっているところもよい。
小林委員	さいたま市の e 公民館に動画をあげたらどうだろうか。せっかく子どもたちが関わって作ったものなので、公民館だけでなく多くの方に見てもらえるように公開したらよいと思う。
西形委員	動画の原稿も中学生に作成してもらおうとさらによいのではないかな。
佐藤委員	公民館の担当職員が、教頭先生や責任者との連携で、活動を組み立てて活動を支えていることがわかった。 ボランティアなど地域の住民は、学校と公民館の関わりの中で子どもたちからどのような刺激を受けているのか知りたい。
中村館長	学校を会場にして公開している講座の情報をホームページに上げている。 例えば連携したい高校には、公民館が募集を担当するので公開講座はいかがかと提案できる。高校は、地元とどのように接点を持ったらよいかというのが難しいところだが、公開講座を開催することで地域の人たちが来てくれると、高校を紹介する形になるということで、連携を喜んでくれている。 また、小、中学校については、例えば与野本町小学校は会場として3回お借りしているが、事前に公民館職員が、ルートや案内表示を出す場所などを現地で確認し、必要に応じて立ち入り禁止のテープを貼る、カラーコーンを立てる、などの対応をしている。当日は、中学生が曲がり角に立ってくれたり、案内等もしてくれたりする。
西形委員	小学校へは、前もって参加者の名簿を提出するのか。
中村館長	名簿の提出は行っていないが、事前に学校の下承を得ている。
磯田副委員長	ボランティアの中学生や高校生は、与野本町公民館区内にある、そのすべての学校と関わっているのか。
中村館長	中学校2校にボランティア募集案内をしている。特に、工作が多いので科学部の生徒をお願いしたいと伝えている。
磯田副委員長	その他に、この公民館独自で何か取り組んだことはあるか。
中村館長	SDGsに関するものが夏休み子ども講座の中に1つある。テーマとして今

	年は海洋ごみで発泡スチロールを取り上げた。SDGsについては、市内の小・中学校それぞれが取り組んでいるが、自分の学校の取組については知っていても、それ以外の学校のことはなかなか分かりにくいと思われる。そこで、公民館で展示を行うことにした。
磯田副委員長	太鼓の演奏やお祭り等のような体験できる芸能は与野にはあるか。
中村館長	公民館の講座の中では芸能の体験は無い。浪曲に関しては、昨年、声出しを5, 6組がやらせてもらった。また、落語会でお呼びしている三遊亭楽生氏はさいたま市出身で、高校の評議員も務められている。必ず落語の前振りは地元の話題で、与野のことだけ15分ぐらい話をさせていただいてから本題に入っている。
佐藤委員	子どもたちが与野の江戸時代の町並みの勉強をして、“大都市さいたま”という地域の中で歴史の足元が掘り起こされる素晴らしい学習だと思う。郷土資料館がどのような役割をして公民館と連携したり学習のサポートをしたりしているのか、とても興味がある。
島田委員	与野本町は歴史が古く文化財が多い。教育委員会が立てたと思われる案内板に、古くて読めなくなっているものがあるので、実際に目で見て確認して、直していただければと思う。

#### B グループ評価コメントの取りまとめ

「取組へのイイね！」について

島田委員	・小学生が、高校生のお兄さんお姉さんたちと活動している姿が楽しそうで、教える側の高校生も楽しそうなのがよかった。
白石委員	・小、中、高等学校との連携がよいと思った。また、ダンスや工作等、いろいろな選択肢があるところがよい。ぜひこれからも続けていただきたい。
西形委員	・地域の歴史を知ることによって世代を超えたつながりができている。
磯田副委員長	・中学、高校の部活を中心に学校とつながるというシステムができている。
佐藤委員	・学習がSDGsの学びにつながっている。 ・公民館、学校、郷土資料館と、地域の各教育機関が横につながっており、郷土史学習や郷土芸能に取り組んでいる。
小林委員	・実際に廃材を使って何かを作る、捨ててしまうものを使ってそれを生かす、その意識を小学生が持てるところがよい。

「皆で活かせるポイント！」について

白石委員	・どこの公民館でも、小学校、中学校が近くにあるので、何かヒントになるようなところがあるのではないかと。 ・学校との連携の仕方はそれぞれの館で工夫するとよい。
佐藤委員	・郷土資料館との連携はとても有意義である。郷土資料館の協力が得られることで内容の専門性が高まり、資料も豊富になるので、公民館と子どもたちとの学びがより本格的になる。学ぶことと分析することという学びの循環づくりに、資料館のような専門の機関が連携していることの力が非常に

	大きいと思う。
西形委員	・いろいろな年代の子どもたちを対象にしているところ。
磯田副委員長	・学校の取組に関する展示をしているところ。 ・未来志向の取組であり、地域づくりなどに関わり合わせながらSDGsに取り組めると感じた。

#### 「1upへの道！」について

島田委員	・与野の歴史に関する動画は、学校にも提供して欲しい。土曜チャレンジにも活用できるのではないかな。
小林委員	・今の中学生や高校生は、日常的にSNSを使いこなしている世代。そこで、動画づくりにおいても、パワーポイントやアニメーション、音楽など、様々な表現方法を組み合わせながら「中高生自身の手」で制作してもらってはどうか。携わることで、他人ごとではない、自分たちのこと、という意識を持ってもらえるのではないかな。自分たちで構成を考え、映像や音を工夫しながら形にしていくことで、単なる「見せられるもの」ではなく、「自分たちのこと」として主体的に捉える意識が育まれるのではないかと考える。
白石委員	・今できている、学校と各機関がつながるハウツーやシステムを、形骸化しないように維持することが大事である。
西形委員	・子育て世代を対象にした講座も充実したら、さらによいのではないかな。
佐藤委員	・高齢の方の姿が見えないのが残念に感じる。地域の“語り部さん”などを学校に招き、昔の自分の生活体験を語ってもらうのも、若者や子どもたちにとって郷土史学習になるのではないかな。

#### 評価内容の共有

##### Aグループ発表 発表者：山口委員

山口委員	植水公民館の取組には3つのポイントがある。1点目は、地域の歴史的資産を生かした点。2点目は、腸活発酵食品の講座で、味噌づくりをしながらおしゃべりというコミュニケーションの場をプラスして、地域のコミュニティづくりを行ったという点。3点目は、落語の舞台の裏話を含めることで、楽しく、深みのあるものになるよう工夫した点。これら3つのポイントがすべて健康につながっている。また、職員がいろいろな仕掛けを行っており、職員自らがフィールドに飛び込んでアクションを起こしている。それによって、近隣からの参加者も増えていると考えられる。企画力と行動力とPR力がそろっているが、中でもPRが一番大切だと思う。職員が公民館だよりをポスティングしている地区もあり、その努力はすばらしい。今後とも発想を豊かにして、自ら足を運ぶなど体をどんどん動かし、積極的に取り組んでほしい。
------	--

#### 評価内容の共有

##### Bグループ発表 発表者：小林委員



小林委員	<p>地域の教育資源を有効に活用し、小、中、高等学校と連携した取組を行っている。郷土資料館など、なかなか連携を図れないようなところとも連携をとって、学びの循環づくりをしている点についてはぜひ共有していただきたい。地域の歴史や郷土芸能、SDGsに着目して、中高生のボランティアとともに小学生の子どもたちに伝えている。社会問題として取り上げられるSDGsに目を向け未来志向的な取組をされている与野本町公民館を、1つの成功事例として全公民館で活かしてほしい。また、中央区の魅力を伝える動画の作成ではナレーターとして中学生が参加している。ICTを使った授業などを受けている今の子どもたちには、動画作成丸ごと携わってもらおうとよいのではないか。それにより、自分たちの問題という意識を持ってもらえ则认为る。</p>
------	---

## 11 その他

次回の開催日時については委員長・副委員長と協議の上、後日通知すること、会場は生涯学習総合センター10階多目的ホールで開催予定であることを報告した。

## 12 閉会